

柏木ビジョン

新宿区立
柏木小学校

2024.6.18

3年2組 社会 わたしたちの暮らしと商店

「消費者って何ですか」
と大島先生。子どもたちから、
「お客さん」
「買い物をする人」
という答えが即座に返ってきます。今日のこの時間の学習問題が示されます。

たくさんの人が来るお店とは、どのようなひみつがあるのでしょうか。

すると、子どもたちの予想が展開されます。

「車いすも入れる」
「おいしさもひみつなんじゃないか」
「見た目がひみつ」
「エレベーターもある」

子どもたちは、日々の生活で観察したことを、思考につなげていきます。こういったことから、改めて体験ということの必要性を実感します。

「お店のひみつってどんなものがあるか考えてみてください」

と、大島先生。子どもたちから、

「実際に行ってみなきゃわからない」
「行ってみたい」

という反応を受け、

「いきなり行ってみても、何を見るのかまとまらないので、今日の目あては」

たくさんの人が来るお店のひみつを見つけるための計画(作戦)を立てよう。

という指示を出しました。教科書にスーパーマーケット内の絵が示されていて、そこから見つけてかまわないということでしたので、子どもたちはさっそく教科書の絵を食い入るように見えています。



真剣な表情でスーパーの様子の絵を観察



授業後に大島先生に尋ねると、スーパーに行ったことのない子や家庭での買い物はほとんどがネットという家庭もいて、導入に苦労していると聞きました。

どんな秘密を調べてくるか

「どんな秘密がありそうですか」

子どもたちは、自分たちが見つけ出した秘密を説明手していきます。

「野菜や果物の売り場のところに、透明なビニール袋がおいてあります」

「買い物かごが、買う前と買ったあとでは色が違うところがあります」

「スーパーにも花が売っています」

「冷凍食品のケースは、入口から遠いところにあります」



これも秘密じゃない

お買い物についていきますか？

授業後に、子どもたちに質問をしました。

「たまに行きます」

「だらだらしていると怒られて、一緒に行くはめになります」

「買い物で友達に会うことができました」

「買い物には全然行きません」

「食べたいものとかを買ってくれるので行きます」

最後に大島先生に授業後の感想を聞きました。

「生活経験がばらばらの子どもたちからどんな意見が出るのか不安でしたが、たくさん意見が出たのでびっくりしています。これから見学授業(6月20日木曜日)になるので、発見や予想したことの確認につながるように進めていきたいです」

調べ学習の視点づくり

後日の授業で、大島先生は、スーパーへの取材でどんなことを聞いたらよいのかということについて、子どもたちがうまく視点をもてないということがあったため、ある工夫をしました。大島先生は、アルバイトで何年もの間ケンタッキー・フライド・チキンに勤務をしていて、リーダーまで務めていた経験があります。そこで、ケンタッキーのお店の人ということで、質問に受け答えをしたり、どんなことをそこで働いている人は大切にしているのかということをお伝えしました。すると、実感が子どもたちにもわいたようで、

「あー、そういうことを聞けばいいんだ」

と、合点がいったようですという報告を受けました。

教科書に載っていることに間違いはおそらくありませんが、そのままではイメージがわくことができない子も多いのです。教科書は、平均的な例や考えが示されていますが、意外に、その範疇にいる子は少ないものです。

実際のスーパーでどんな取材が展開されるのか、楽しみにしています。

